

年月日：1972年3月24日

用務：日本の人口問題と開発問題について

連絡機関：Asian Statistical Training Institute

ハワイ東西センター人口研究所国際諮問委員会

標記の委員会 (International Advisory Committee Meeting of the East-West Center Population Institute, Hawaii) の第4回目に当たる1972年会議が、1月4日から6日まで、ハワイ・ホノルルの東西センター (ジェファーソンホール) で開催された。

出席者は、委員長の Philip M. Hauser のほか、C. Chandrasekaran (国連人口部)、A. J. Coale (プリンストン大学人口研究所長)、M. B. Concépcion (フィリピン大学人口研究所)、E. Hyock Kwon (ソウル国立大学医学部長)、Norma McArthur (オーストラリア国立大学)、Visid Prachuabmoh (タイ・チュラロンコーン大学人口研究所長)、Douglas S. Yamamura (ハワイ大学) の諸氏と、黒田俊夫 (人口問題研究所人口移動部長) を含む9名の委員、それに東西センター人口研究所 Paul Demeny 所長その他数名の事務局員が参加した。

会議は、まず Demeny 所長から過去1年間における研究所の教育、訓練、研究の活動ならびにスタッフの現況についての詳細な報告が行なわれた。また、現在研究中の project の主要なものについてはそれぞれ担当者より詳細に研究の進捗状況についての報告が行なわれ、委員との間に質疑応答が行なわれた。

1月6日午前の session において、国際諮問委員会第4回目年次会議の“観察と勧告” (Observations and Recommendations) 案を検討し、これを決議、提出して、会議を終了した。とくに、委員会はこの人口研究所の大学院教育ならびにスタッフの研究活動における著しい進歩、発展に敬意を表するとともに、とくに開発途上国における人口専門家の需要の増加の観点から、この分野の教育訓練に対するこの研究所のいっそうの活動を期待した。ただ、セミナーその他短期のコースの訓練生については、教育程度・専門的活動経歴等についての同質性を極力保持することが必要であることが指摘された。(黒田俊夫記)

ODA (人口研究機関連合) 作業部会

1972年1月10日から13日までの4日間にわたって、Organization of Demographic Associates の workshop が、ホンコンのヒルトンホテルで開催され、本研究所の黒田俊夫 (人口移動部長)、小林和正 (資料課長、E C A F E に出向中)、岡崎陽一 (人口移動部移動科長) の3技官がこれに出席した。

初日である1月10日の午前と最終日の13日の午前の2回は plenary session に当てられ、それ以外は Labor Force, Internal Migration and Urbanization, Family and Household Structure の三つの作業部会のそれぞれ独立の session が行なわれた。ODA の Chairman である Prof. Yon 欠席のため、総会の Chairman は、ODA Vice-chairman の M. B. Concépcion が代行した。

参加者は、ビザの関係で参加できなかった台湾の2名を除き24名に達した。Labor Force 部会は9名の参加者で、Chairman は P. M. Hauser, Rapporteur は E. Kitagawa であった。Internal Migration and Urbanization 部会の参加者は5名、Chairman は黒田俊夫、Rapporteur は Elvira M. Pascual、それから Family and Household Structure 部会の参加者は10名で、Chairman は G. T. Castillo, Rapporteur は W. Flieger であった。日本から出席の小林課長は Family and Household Structure の部会に、また岡崎科長は Labor Force の部会のメンバーとして参加した。